

## C-06 外科選択プログラム

### 概要

(1) 外科選択プログラムは、選択科目として外科を選択する場合の研修プログラムである。外科全般を対象とすることも、外科の中の専門分野を深く研修することもできる。

(2) 選択期間中には指導医と相談の上、研修医一人ひとりが自分のキャリア育成に合致したSBOsを設定することができる。一方で、選択科研修中においても、中央病院プログラムが2年間で必要と定めた中央病院一般目標GIOならびに行動目標SBOs(EPOC)の達成度を上げる必要がある。

指導責任者：清水 哲

### 目標

#### 一般目標(外科選択研修 GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、外科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

#### 行動目標(外科選択研修 SBOs)

個人が決めるSBOs

診療科が薦めるSBOs

EPOCで定める目標

#### EPOCで定める目標

##### 1. 外科で必ず修得しなければならないEPOC項目(マトリックス表で )

A-4-9 穿刺法(胸腔、腹腔)

A-4-11 ドレーン・チューブ

A-4-13 局所麻酔法

A-4-14 創部消毒

A-4-16 皮膚縫合法

##### B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

B-1-26 腹痛

B-1-27 便通異常

B-2-8 急性腹症

B-2-9 急性消化管出血

##### B - 2 経験が求められる症状・病態

B-3-7 消化器系

(6)横隔膜・腹壁・腹膜

##### 2. 外科で修得するのが望ましいEPOC項目(マトリックス表で )

A-1 医療面接

A-2-4 腹部の診察(直腸診含む)

A-2-1 全身観察

A-3-1 尿検査

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| A-3-2 便検査             | A-4-7 採血法       |
| A-3-3 血算・白血球分画        | A-4-8 穿刺法((腰椎)  |
| A-3-4 血液型判定・交差適合試験    | A-4-12 胃管の挿入管理  |
| A-3-5 心電図(12誘導) 負荷心電図 | A-4-15 簡単な切開・排膿 |
| A-3-6 動脈血ガス分析         | A-4-17 軽度の外傷・熱傷 |
| A-3-7 血液生化学検査         | A-5-1 療養生活の説明   |
| A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査  | A-5-2 薬物療法      |
| A-3-10 肺機能検査          | A-5-3 輸液        |
| A-3-12 細胞診・病理組織診断     | A-5-4 輸血        |
| A-3-13 内視鏡検査          | A-6-1 診療録作成     |
| A-3-14 超音波検査          | A-6-2 処方箋、指示箋   |
| A-3-15 単純X線           | A-6-3 診断書、死亡診断書 |
| A-3-16 造影X線           | A-6-5 紹介状、返信    |
| A-3-17 X線CT           | A-7-1 診療計画作成    |
| A-3-18 MRI検査          | A-7-2 診療ガイドライン  |
| A-3-19 核医学検査          | A-7-3 入退院適応判断   |
| A-4-6 注射法             | A-7-4 QOL考慮     |

### B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

- B-1-22 咳・痰
- B-1-23 嘔気・嘔吐
- B-1-25 嚥下困難
- B-2-13 外傷

### B - 2 経験が求められる症状・病態

- B-3-7 消化器系
  - (1) 食道・胃・十二指腸疾患
  - (2) 小腸・大腸疾患
  - (3) 胆嚢・胆管疾患
  - (4) 肝疾患
  - (5) 膵臓疾患

### C 特定の医療現場の経験

- C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)
  - (5) 高頻度救急疾患の初期治療ができる
  - (6) 専門医へのコンサルテーションができる
- C-6 緩和・終末期医療(臨終の立ち会いを経験すること)
  - (1) 心理社会的側面への配慮ができる
  - (2) 緩和ケアができる
  - (3) 諸問題への配慮ができる
  - (4) 死生観・宗教観への配慮ができる

### 3. 全ての科で目標とする項目(マトリックス表では )

- I. 医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1)患者-意思関係、(2)チーム医療、(3)問題対応能力、
- (4)安全管理、(5)症例呈示、(6)医療の社会性

**方略(LS)・評価(EV)**

A- 4外科プログラム(基本研修・外科)を参照

また mini-Peer Assessment Tool (mini-PAT) に評価を記載し、プログラム責任者に報告する。